

# 2024年度後期「企画に対する学生評価」

## 臨地看護学実習企画に対する学生評価

実 習 計 画	実習ガイダンスは、実習を円滑に行うために役立った。 指導教員と実習指導者の連携はとれていた。
実 習 内 容	実習の内容は関連する講義科目と対応がとれていた。 実習中に課された記録・提出物の量は適切であった。 指導教員や実習指導者から適切な助言が得られた。 教員・実習指導者の説明は具体的でわかりやすかった。 受け持ち患者の看護の難易度は、適切であった。 カンファレンスは実習に役立つ内容であった。
実 習 環 境	教員・実習指導者の対応は、学生を尊重したものであった。 安全と事故防止に対する適切な指導と配慮がなされていた。
総 合 評 価	実習によって、看護職者を目指す意欲が十分に高まった。 この実習は全体として満足できるものであった。

- |             |           |
|-------------|-----------|
| ⑤ 強く思う      | (非常に良い)   |
| ④ やや思う      | (良い)      |
| ③ どちらとも言えない | (普通)      |
| ② あまり思わない   | (あまり良くない) |
| ① 全く思わない    | (良くない)    |

科目名：基礎看護学実習Ⅱ（看護過程と看護実践）

（看護学科第2学年後期／必修）

履修者数：59 配付数：59 回収数：58 回収率：98.3%

\*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.2	3.5	4.0	3.7	4.1	4.0	4.2	4.0	3.9	4.2	3.9	3.8

\*評価に対するコメント

基礎看護学実習Ⅱ（看護過程と看護実践）担当教員

高い回収率で学生の皆さんの協力に感謝いたします。指導教員と実習指導者の連携の評価が3.5でした。また、臨床での指導の希望や提出物に関する記述がありました。実習前に各実習病棟の看護師長および実習指導者と担当教員が打ち合わせを行い、実習開始後も患者の状況と学生の学習状況を共有し指導にあたりました。次年度はさらに関係部門と連携を取りより良い実習にしていきたいと思っております。

科目名：成人看護学実習 I（急性期）

（看護学科第 3 学年後期／必修）

履修者数：59 配付数：59 回収数：28 回収率：47.5%

\*評価結果（平均）

問 1	問 2	問 3	問 4	問 5	問 6	問 7	問 8	問 9	問10	問11	問12
4.5	4.5	4.5	4.1	4.0	4.1	4.4	4.4	3.8	4.5	4.0	4.1

\*評価に対するコメント

成人看護学実習 I（急性期）担当教員

問 9 の「教員・実習指導者の対応は、学生を尊重したものであった」は、「3.8」であったが、それ以外の項目はすべて「4.0」以上であり、学生は実習に意欲的に取り組み、この実習企画に対する満足度も高かったとの評価ができる。しかし、回収率が 47.5%と半数以下だったことをふまえて、次年度は実習開始時と終了時に学生評価への協力について呼びかけていこうと考える。

科目名：成人看護学実習Ⅱ（外来）

（看護学科第3学年後期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：36 回収率：60.0%

\*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.3	4.3	4.5	4.6	4.6	4.6	4.5	4.5	4.6	4.6	4.5	4.5

\*評価に対するコメント

成人看護学実習Ⅱ（外来）担当教員

病院と大学をつなぐ廊下の工事が冬季での実習となり、学生には移動に伴う負担が生じた。その環境下でも、学生は、外来と病棟との連携、患者総合サポートセンターの役割、外来化学療法センター、看護専門外来における卓越した看護実践を間近に見学し、診療科外来の看護過程の展開を行うことができた。なお、多数の部署に渡る実習を展開するため、教員の指導の一貫性および教育の質保証については引き続き、向上を図っていきたい。

科目名：成人看護学実習Ⅲ（慢性期）

（看護学科第3学年後期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：38 回収率：63.3%

\*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.2	4.1	4.2	4.5	4.3	4.4	4.3	4.4	4.4	4.4	4.3	4.4

\*評価に対するコメント

成人看護学実習Ⅲ（慢性期）担当教員

成人看護学実習Ⅲは第3学年後期に実施されている慢性期看護の臨地実習である。本学の病院6階西、7階東、9階西の3か所で行っている。学生は2週間の実習中に受け持ち患者を原則1名担当し、看護過程を展開する。63.3%の回収率ではあるが、評価点は12項目において4.1～4.5とばらつきなく安定しており、良好であったと思われる。

科目名：母性看護学実習

(看護学科第3学年後期／必修)

履修者数：60 配付数：60 回収数：39 回収率：65.0%

\*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.4	4.2	4.7	3.4	4.7	4.7	4.6	4.5	4.7	4.7	4.4	4.6

\*評価に対するコメント

母性看護学実習担当教員

全体の平均が4.5であり、概ね満足できる実習企画と評価した。回収率は65.0%であり、次年度さらに回収率がアップできるよう学生への周知など努力する。評価項目のうち、特に教員や実習指導者の指導については、評価が向上しており、学生にとって満足のいく実習対応であったと評価する。一方で、教員と指導者の連携については評価を下げた学生もおり、自由記載でも指摘があったことから、次年度は教員と指導者の連携を十分にとるよう注意していく。

科目名：精神看護学実習

(看護学科第3学年後期／必修)

履修者数：60 配付数：60 回収数：40 回収率：66.7%

\*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.5	4.6	4.7	4.8	4.6	4.6	4.7	4.7	4.8	4.8	4.6	4.7

\*評価に対するコメント

精神看護学実習担当教員

今年度から、昨年度の実習評価を活かし病院実習を2週目に実施しました。模擬患者への看護実践である学内実習そして社会復帰施設から開始し、コミュニケーションの準備状態を整えることができたと考えています。病院実習では、未だ続く感染状況の影響を受け、実習施設により経験の違いがある病院実習となりましたが、限られた時間を有効に活用し、精神の健康問題を抱える対象と看護職として向き合っていた実習でした。